



ナイル川をたどる悠久の旅: エジプト旅行へのいざない

ルクソール～王家の谷～アブシンベル神殿～ピラミッド

公益社団法人日本防犯設備協会 監事
アツミ電気株式会社 取締役 営業本部長 **澤邊 博實**



コロナ禍の状況下、自由に海外に行けるようになるには2023年との話もあり海外旅行に思いを馳せる方も多いのではないのでしょうか?今日はその一人としてエジプトへの思いを紹介させていただきます。

エジプトと聞いて連想するのがピラミッド・スフィンクス・ミイラ・砂漠のイメージですが、実際に訪ねてみて、イメージ通りの砂漠に立つ数々の巨大な建造物群だけでは無く、その背景にある侵略・征服の歴史、死者転生の死生観、歴代ファラオ(王)の偉大さ、建築王ラムセス2世の妻ネフェルタリへの愛情、優雅なナイル川クルーズ、個性的なアラブ料理など、今まで訪れたどの国よりも、圧倒され、深い感動を覚えました。

その魅力の一端を少し紹介させていただこうと思います。

一度はエジプトに行ってみたいと思いついたのが3年前の春。そしてその年の年末には旅の起点となる古代エジプトの首都(テーベ)ルクソールに立っていました。

カイロから南に670km、紀元前4000年前に栄えたルクソールは町の真ん中をナイル川が流れ、東岸を生者の都、西岸を死者の都(ネクロポリス)として分けがされています。生者の都には政治を司るルクソール神殿とカルナック神殿が南北に配置され2000年に亘り造営され続けた歴史の重みがあります。神殿には高さ23mの古代文字(ヒエログリフ)のレリーフが刻まれた巨大な柱が100本以上並び、巨大なオベリスクとともに見るものを圧倒します。古代エジプトの栄華を極めた都は壮大です。



一方西岸の死者の都は『王家の谷』と呼ばれる歴代のファラオの墓が石灰岩の岩山の奥深くに盗掘を免れるように小さな入口とともに点在します。現在確認されているだけで約60個の墓が確認され、その一つには有名なツタンカーメンの王墓も存在しています。入口は狭いのですが、奥に入っていくと王のミイラが置かれていた玄室とそこに至る通路には豪華な装飾が施され、4000年前の色合いが今もって現存している事に対する驚きと高い技術力に感心させられます。古代エジプトでは死と復活は繰り返されるとの死生観があり、その再生を行う為の儀式と魂が戻る場所としての肉体(ミイラ)が非常に重要視されていました。その為、それを導くいくつもの役割を持った神が存在し、様々な儀式を通じて大きな役割を果たします。山犬の形をしたアヌビス神は守り神として、王のミイラに来世での再生と幸福を願って祝福を与えるとされています。冥界への入り口であり、死者の永遠の住みかとなる墓を彩る壁画の数々がその死生観の表れです。

ルクソールからナセル湖があるアスワンまでは、5つ星のクルーズ船を利用し2泊3日の船旅にてナイル川を下ります。定員100名ほどのクルーズ船ですが、本格的なディナーだけでは無く、ベリーダンスのショーや民族衣装(ガラバーヤ)を着てのパーティなども楽しく、また屋上にはプールとバーもあり、夕暮れ時にお酒を飲みながらナイル川の雄大な流れや風を肌で感じ、ゆったりとした至極の時間が過ごせます。時間に追われる旅が多い中で、贅沢な時間の過ごし方が出来るのもクルーズ船の魅力です。

途中、ホルス神殿やイシス神殿に立寄りながら南下を続けます。3日目に船旅の終着アスワンにて下船し、陸路で旅のハイライト、アブシンベル神殿を目指します。

紀元前1300年頃にこの地に巨大な神殿を築いたのが、89歳の生涯を閉じるまでの間に数百の巨大な建造物を残したラムセス2世で、南方民族ヌビア人の侵略を防ぐべく、その力の象徴として巨大な大神殿と妻ネフェルタリの為の小神殿を造営しました。

高さ20mの巨大な4つのラムセス2世像は年齢の違いを表現し、最奥の至聖所には太陽神ラーと並んで座るラムセス2世の像があり、偉大なる神と同列の位置づけを表現しています。エジプト最南の何もない砂漠の地に、これほどまでの建物を造営した王の強大な権力と建築技術には感心するばかりです。また今からわずか200年前の1800年頃に発見されるまでの約3000年間、砂の中に埋もれ人々の記憶に忘れ去られていた事実にも驚きを禁じえません。ラムセス2世はエジプト各地に建造物を造営していますが、このアブシンベル神殿が最高傑作であり、早逝した妻ネフェルタリへの愛情の証でもあり、歴史上のロマンを感じます。夜にはライトアップされ、音と光のショーも良いですが、早朝の朝日に照らし出される神殿の神々しさには感動します。



翌日はエジプト最南端の地から首都カイロに近いギザを目指し、空路北上します。

有名なクフ王のピラミッドを始めとして、カフラー王、メンカウラー王の三大ピラミッドが砂漠の地ギザにあります(エジプト国土の90%が砂漠です)。今まで見てきた巨大な建造物群を遥かにしのぐその大きさに驚かされます。高さ140m、一辺の長さ230mと200万個以上の石が積み上げられています。最大1個2t以上の石をアスワンから船で運び積み上げ、途方もない時間と労力をかけた世界最大の建造物にはただただ圧倒されます。またピラミッド内部の玄室に至る通路は狭く、圧迫された空間で恐怖心すら感じますが、あまりの規模感にこれが墓なのかと疑問を感じるほどです。また近くには全長57mのスフィンクスも鎮座し、ピラミッドを見守っています。



旅の最後にエジプト考古学博物館を訪れ、ツタンカーメンの黄金のマスクと7層にも及ぶ絢爛豪華な人型棺や埋葬品の数々を目の当たりにし、ツタンカーメンの悲運の運命と手つかずで発見された奇跡に、歴史の面白さを感じます。先日も別の地で新しいミイラが見つかったとの報道もあるほど、エジプトの地にはまだまだ未発見の物が数多く存在し、その発見が歴史の謎解きに貢献しています。

日本では縄文時代の紀元前4500年前に、ここまで発達した文明を持っていたエジプトの凄さと現代社会におけるエジプトとの落差を比べてみると不思議に思えます。

今年はエジプト旅行をする方には朗報があります。年内にもギザの三大ピラミッド近くに大エジプト博物館の開館が予定されていて、エジプト考古学博物館から展示品を移動させ、より広いスペースで今まで以上の展示品が揃えられる予定です。また旅の楽しみの一つである食事はクミン等スパイスのきいたアラブ料理(宗教上豚肉は食べません)やナイル川からとれる新鮮な魚介料理がお勧めです。



圧倒的な歴史とそれを彩る歴代ファラオの建造物、ファラオ・王妃に纏わる悲哀の物語、実際にそれを目でみて触れてみると悠久の歴史ロマンが押し寄せてきます。

エジプト旅行は他の国では味わえない魅力に溢れています。

旅慣れた方も一度はエジプトを訪れ、唯一無二の経験をされてはいかがでしょうか？

アドバイスとして訪れる季節は11月～2月、期間は最低8日間以上、治安は良くないので個人旅行よりもツアー旅行をお勧めします。

それでは再び海外へ自由に旅行できる日を夢見て、ボン・ボヤージュ！